

山桜の里 戸赤

県の環境美化運動、県道花壇に花植え
6. 25戸赤長寿会

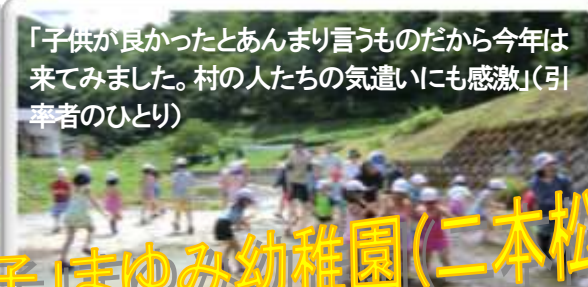


みんなが集まれば、 いっそう元気はつらつ

老人会 27人中 16人参加、マリーゴールド、サルビア、ペコニアを手際よく植栽



子供44人、大人17人宿泊(7.19)



「子供が良かったとあんまり言うものだから今年は来てみました。村の人たちの気遣いにも感激」(引率者のひとり)



そば打ち体験

オタマジャクシつかみに大興奮

「ふくしまっ子」まゆみ幼稚園(二本松)大はしやぎ

と発行良く続けてこれたと思
う。村の歴史になっっているし、
村を紹介するのにも都合良く、
パンフレット代わりになる。
これからも期待します。



機関誌
発行20
0号おめ
でございま
す。編集

機関誌
創刊
200
号

星隆雄区長
継続こそ
力



引率者のみなさんは校庭への階段用に
キャンドルを用意してきてくれた

【木地の学習No.69】古代～中世、さらに近世の木地師とは、どこでどのように繋がっていたのだろうか。果たして轆轤技術の伝承が行われたのか。あるいは古代・中世と近世の木地師は全く脈絡がなかったのか。またそれとは別に近世後期東北地方に発生、展開した「こけし挽き」と木地師は、どこで接点を持ったのか。まだまだ解明すべき点が多々残されている。帳外の木地師 木地根元地蛭谷、君ヶ畑の支配下のない木地小屋は、当然氏子狩を受けないし氏子狩帳にも記載されることはない。そのような帳外の木地小屋も少なからず存在した。近江から距離的に遠く、通称地木地と呼ばれるような農業兼業の所が多かったようである。東北地方を考えるならば、蒲生氏郷以来近江木地師を中心とした一大拠点となった会津地方には、近世期から氏子狩制度消滅の明治期までに十数度の氏子狩をみたが、会津以北になるとわずかに一、二度あるいは全く氏子狩を受けていない地域になっている。氏子狩の北限は日本海側では秋田県雄勝郡川連(かわつら)(稲川町)、大川目(おおかわめ)(増田町)、太平洋側では宮城県鳴子町周辺の五造、加美、栗原の三郡であった。文政十(1827)年、蛭谷は会津での氏子駈を終えると早速前期の地へ巡回している。これらの地は、川連を除いては、すべて文化から文政初年にかけて、信州方面から移動して来た木地師達であったと思われる。戸沢山木地師(加美郡宮崎村)は氏子駈帳に「文政元年丑(ママ)八月廿八日、信州より渡り」とあって、他の木地小屋と八幡講を組織して綿密に連絡を取り合っていることや、天保の飢饉以後、長い漂泊の果て、川連に落ち着いた木地師に残された文書に、信州あるいは飛騨で受けたと思われる文化年間の宗旨讀印證等を考え合わせると、近江系の木地師であったことは間違いない。(会津地方歴史民俗資料館「木地語り」より) (続く)

花豆栽培



さやが大きくなりないうちで、途中で落ちてしまうものがあるのは、雨がすくないせいかな。(談)

川床を 試す



一枚岩の戸石の川は涼を楽しむ絶好の場所、川の真ん中でバーベキュー。実行委員でどんな感じか危なくはないかなど試してみました(7・24)

夏の常連客 思いっきり軽音



夏の常連客、「やまざくら」に
来ないと夏が始まらない。
とか。7/15

花豆パイを作ってもらっている「おくや」の佐藤さんらの発表があった「あいづまるごとネット交流会」【7・7民報】

6次化の取り組み紹介

下郷 会津地方の食品業者ら

産業六次化の推進に向けた「あいづまるごとネット交流会」は、1日、下郷町の下郷ふれあいセンターで開催された。

会津地方の食品事業者や行政関係者ら約五十人が出席した。下郷町産花豆を使った商品を販売するおみや(喜多方市)の佐藤修一

ナッツ工場店長らが、六次化の取り組みを紹介した。商品の試食も研究員が、支援事例などを発表した。

れきのひとコマ



川が変わって道路が良くなる

足場がかけられ橋の下部構造物が姿を現すのが待ち遠しい



流しそうめん



小椋哲雄さん

【28612集会所で】
いちごづく

(ストーリー性のある村づくりのために) [No.37] 紀元前四〇〇年頃の九州佐賀・長崎・福岡の遺跡から稲を収穫する際に使用する石包丁が出土し、稲作のはじまりが確認できる。東北地方南部には意外にも比較的早くこの弥生土器が広がったようで、会津地方には多くの遺跡が存在するが、石包丁の出土例は僅かである。只見町七十刈遺跡からは靱痕土器が出土し、只見町窪田遺跡からは石製穂摘具の出土があるので、当地方においては稲の収穫には石包丁以外の器具を使用したことが明らかとなっている。弥生時代になると鉄製器や青銅製品も移入され、農業にかかわる数々の生活用具が用いられた。稲以外の穀物の栽培もあったと思われるが、会津地方では確認されていない。会津地方の弥生時代 会津地方にも多くの弥生時代の遺跡がある。会津若松の墓料遺跡や金山町の宮崎遺跡・只見町の窪田遺跡・下郷町の五百地遺跡が代表的遺跡で、何れも死者と共に葬った土器類や管玉などが出土している。窪田遺跡からは二棟の弥生時代中期中葉の居住跡が検出されており、同町の唄崎遺跡からは方形に配置された四本の柱穴、円形の焼土が中央にある弥生時代の居住跡と推定されている(…) (「下郷町史」第7巻通史編(発行・下郷町))

より出典 (続く)